

今がんばっています 内海府中学校

これまででない地域貢献活動

大好きな海府地区をもっと知ってもらいたい、今の生徒の願いです。

内海府中学校区には「佐渡カンゾウ祭り」と「佐渡海府寒ぶり大漁まつり」という2つの祭りがあります。これまで9年間に渡り、内海府中学校の生徒はガイドボランティア活動を実施してきました。

今年度、全校で2人となった生徒は、「これまでと同じことをしていても自分たちの願いは叶わない、どうしたらよいか」と考えました。大きな変化は、一昨年から鷲崎地区で地域活性化のため活動している法政大学の学生との交流です。学生の皆さんの協力を得て、カンゾウ保護のためのチャリティーグッズ（缶バッジとステッカー）を自主制作し、カンゾウ祭りで販売しました。

寒ぶり大漁まつりでは、大学生がまとめたレポートを参考に、お客さまが何を求めているのかを探り、ガイドに活かしました。また、寒ブリの獲り方

と調理方法を鷲崎漁港の多田漁労長さんと新潟魚食普及の会の森川さんに取材し、ガイド文を一新しました。海府地区の魅力を発信することを通して、地元の方々や大学生をモデルに、生徒自身が魅力的な大人になる活動を実践しています。



大漁まつりでのガイドの様子



缶バッジ
ステッカー

学校教育課 ☎ 58-7351

世界遺産登録に向けて

鉾山町あいかわ・上町散策②

佐渡奉行所跡(その1)

赤煉瓦塀が特徴の旧相川区裁判所の傍らに、佐渡奉行所跡があります。江戸時代、金銀を豊富に産出する佐渡は、徳川幕府が直接管理する直轄地（天領）でした。佐渡奉行所は、相川湾を望む舌状台地の先端に築かれた徳川幕府の出先機関で、江戸時代を通じて佐渡の政治・経済の中心を担いました。

現在の相川市街地の原形となる町づくりを行いました。これにより海辺の小村であった相川は、人口4.5万人を擁したといわれる鉾山町へと発展していきました。

佐渡奉行所建設以前の金銀山管理施設（陣屋）は、もともと、沢根にある鶴子銀山の代官屋敷に置かれていました。慶長6（1601）年、

鶴子銀山の山師たちによつて良質の金銀鉱脈が相川で発見され、佐渡はゴールドラッシュを迎えることになりました。慶長8（1603）年には、相川金銀山の開発が本格化したことで、陣屋（代官所）は当時の佐渡代官であった大久保長安によつて、鶴子から相川に移転されました。

大久保長安が建てた初期の陣屋は、現在の敷地の2倍近くの規模があり、書院造の建物や茶室なども備えていたといわれています。

また、長安は陣屋の移転とともに、



復元し、公開している佐渡奉行所

世界遺産推進課 ☎ 63-5136